

医療安全と質を保証する患者状態適応型パス(PCAPS)

H22 年度 PCAPS 研究会 中間シンポジウム

PCAPS 統合化システムの活用とその可能性

－実臨床での運用事例を踏まえて－

(H22 年度厚生労働科研 がん臨床研究(質評価指標開発研究:飯塚班) 中間報告含む)
厚生労働科学研究(がん臨床研究) 推進事業 共催:財団法人 日本対がん協会

プログラム

日時：2010 年 9 月 25 日（土） 10:00～17:00 終了予定 （途中昼休憩 1 時間）

会場：東京大学本郷キャンパス 工学部 2 号館 2 1 3 号室

はじめに

臨床知識構造化手法 PCAPS (Patient Condition Adaptive Path System: 患者状態適応型パス) は、状態適応型介入という医療の本質を反映した臨床知識の構造モデルを提示し、その構造で現実知識コンテンツを記述し、それら知識コンテンツを関係者が利用できる条件を整え、さらに医療経営および臨床知識コンテンツの改善の場を提供する、あるべき医療社会システムを実現するためのコアツールです。

標準化・最適化された構造化臨床知識は、世に多くの知識が氾濫し、多様な知識・情報提供サービスがビジネスとして成立するなかで、豊かな安全・安心社会実現の一つの基盤として、社会が真に求めている知識といえるでしょう。

そうした社会ニーズを強く感じながら、PCAPS 研究会は壮大な構想のもとに開発研究を進めてきました。そして、PCAPS 統合化システムの中心的役割を果たす PCAPS-Administrator が実臨床で運用され始めました。PCAPS-Administrator がそのデータとして利用する多様な臨床知識コンテンツの整備も積極的に進められてきました。

本シンポジウムでは、電子コンテンツとして開発されてきた多様な PCAPS 臨床知識コンテンツと、実臨床での運用事例について、中間報告をいたします。

2010 年 9 月 25 日

PCAPS 研究会 代表：飯塚悦功

副代表：水流聡子・棟近雅彦

※PCAPS (Patient Condition Adaptive Path System：患者状態適応型パス)

主催：PCAPS 研究会

午前の部

司会：水流 聡子（東京大学）

10:00-

開会の挨拶：PCAPS 研究会のねらい

飯塚悦功（東京大学）

10:10-10:30

I：PCAPA統合化システム開発

・ 今年度中期・長期計画

水流 聡子（東京大学）

10:30-11:30

II：PCAPS-Administrator を用いた実臨床での運用試行事例

- ・ 飯塚病院（脳外科）での運用事例（オーダリング環境：計画から実施・記録・評価、手術部との院内連携）
名取 良弘・水野 良美・佐野 美和子・渡辺 恵理子（飯塚病院）
- ・ 兵庫県立西宮病院（消化器外科）での開発（電子カルテ環境：計画系としての利用）
吉岡 慎一・藤井 直彦（兵庫県立西宮病院）
- ・ トヨタ記念病院（産婦人科）の計画（電子カルテ環境：計画から実施記録評価、NICU との院内連携・地域連携）
小口 秀紀・宮崎 のどか（トヨタ記念病院）・白石三智（日本バプテスト病院）
- ・ 訪問看護ステーションの計画（計画から実施・記録・評価まで）
佐野 袈裟美（スギメディカル株式会社）・松木 満里子（アコモケアサービス）
- ・ 大久野病院の計画（回復期病院・オーダリング環境：計画から実施・記録、リハビリ院内連携・地域連携）
進藤 晃（大久野病院）
- ・ 石川県立高松病院での運用事例（紙カルテ環境での運用：看護部門による運用紹介）
水流 聡子（東京大学）

11:30-12:40

III：パネルディスカッション 「がん診療プロセスの質評価モデル」

（「厚生労働科研 がん臨床研究（飯塚班）」中間成果報告）

- ・ パネルリーダー（研究代表者）： 飯塚 悦功（東京大学）
- ・ パネリスト（分担研究者）：
 - ・ 水流 聡子（東京大学）
 - ・ 新海 哲（四国がんセンター）
 - ・ 蒲生 真紀夫（みやぎ県南中核病院）
 - ・ 名取 良弘（飯塚病院）
 - ・ 吉岡 慎一（兵庫県立西宮病院）
- ・ 全体討論

12:40-13:40 昼休み

飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦監修 患者状態適応型パスシステム研究会編著

『患者状態適応型パス—電子カルテおよび病院情報システム搭載版電子コンテンツ（医療の質安全保証に向けた臨床知識の構造化）』（日本規格協会） 定価：5,670 円(税込)



午後の部

13:40-14:50

IV: PCAPS 領域別報告: ポスターセッション (ラウンド形式, 1 領域質疑込 10 分)

※ポスターセッション会場は、本会場の 1 階上の広場 (サブウェイの前) になります。

(ストリーム I) 座長: 飯塚 悦功 (東京大学大学院)

- ・ 脳外科 勝田 俊郎 (北九州市立医療センター)
- ・ 消化器外科 吉岡 慎一 (兵庫県立西宮病院)
- ・ 小児感染症 箕浦 貴則 (仙台医療センター)
- ・ 脳梗塞 (急性期) 福田 賢治 (聖マリア病院)
- ・ 脳梗塞 (慢性期) 進藤 晃 (大久野病院)
- ・ 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 山路 聡子 (群馬県看護協会 訪問看護ステーション)・浦西 郁哉 (東京大学大学院)

(ストリーム II) 座長: 水流 聡子 (東京大学大学院)

- ・ 乳癌リンパ浮腫 吉原 依里 (都立駒込病院)
- ・ 訪問看護 松木 満里子 (アコモケアサービス)
- ・ 精神科 出村 一洋 (石川県立高松病院)
- ・ 小児アレルギー 尾方 優花 (東京大学大学院)
- ・ 腎臓内科 藤井 直彦 (兵庫県立西宮病院)
- ・ 周産期 宮崎 のどか (トヨタ記念病院)・白石三智 (日本バプテスト病院)

休憩

15:00-17:00

V: PCAPS 領域別報告: オーラルセッション

- ・ 脳梗塞急性期治療の標準化活動
福田 賢治 (聖マリア病院)
- ・ 小児循環器学会における心疾患実態調査
梶野 浩樹 (旭川医科大学病院)
- ・ 小児領域における内科系モデルの変遷
藤原 優子 (慈恵医科大学病院)
- ・ PCAPS 導入による質・安全管理指標の活用性を探る
東川 貞男 (石川県立高松病院)
- ・ COPD 地域連携モデル (多職種による地域連携)
茂木 孝 (日本医科大学呼吸ケアクリニック)・加藤 省吾 (東京大学)
- ・ 周産期および新生児管理における調査事例
宮崎 のどか・小口 秀紀 (トヨタ記念病院)
- ・ 生体肝移植 Admin-Lite English Version 開発進捗の報告
山田 貴子・中田 知廣・田中紘一 (神戸先端医療センター)
- ・ CKD (慢性腎不全) のフォローアップパスの開発
藤井 直彦 (兵庫県立西宮病院)

17:00

VI: 閉会のあいさつ

飯塚 悦功 (東京大学)



シンポジウム運営組織

代表	飯塚悦功（東京大学）	
副代表	水流聡子（東京大学）、棟近雅彦（早稲田大学理工学術院）	
運営 スタッフ	<PCAPS 事務局> 加藤 省吾（東京大学） 金子 雅明（青山学院大学） 佐野 雅隆（早稲田大学） 小柴 研一（東京大学 共同研究員） 黒田 幸清（東京大学 学術支援専門職員） 佐藤 典子（東京大学 学術支援専門職員）	<学生スタッフ> 下野 僚子（東京大学博士課程） 藤井 健人（東京大学修士課程） 伊藤 岳大（東京大学修士課程） 原田 美沙子（東京大学修士課程） 浦西 郁哉（東京大学修士課程） 尾方 優花（東京大学工学部） 秋山 友毅（東京大学工学部） 末政 憲司（東京大学工学部）

問い合わせ先：

PCAPS 事務局

E-mail：Office_PCAPS@umin.ac.jp

TEL：03-5841-7301 FAX：03-5841-7276

本研究事業HP：<http://plaza.umin.ac.jp/~A-epath/index.html>

注意：カメラ撮影はご遠慮ください。PCAPS は各種特許申請済みです。